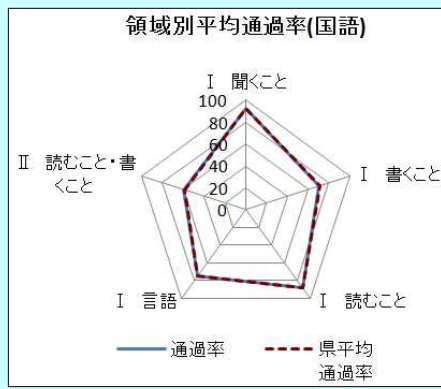


「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校74.9%, 県74.7%) 対県比 100%

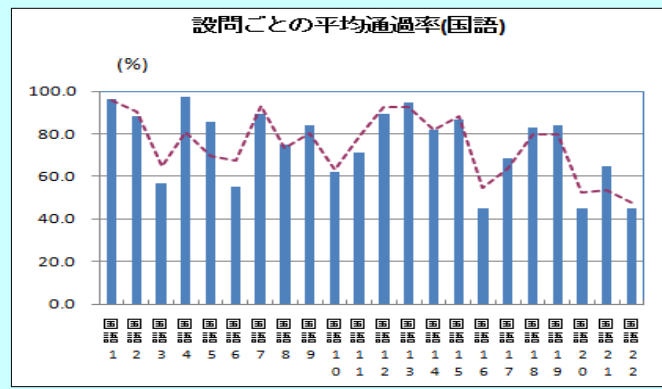
全国学力・学習状況調査 本年度正答率

本年度の結果について

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



A問題	B問題
本校 72.3 % 全国 70.0 % 県 73.8 %	本校 67.6 % 全国 65.4 % 県 69.7 %

国語科の結果において、タイプIの平均通過率は78.3%で60%を超えており、基礎的・基本的な内容はおおむね定着していると考えられる。タイプIIの平均通過率は59.5%で60%を超えておらず、教科で学習した知識・技能を学習の様々な場面に活用する力に課題があると考えられる。

来年度(全国学力学習状況調査)の目標値

対全国比 105%

重点課題

- 【課題1】「基礎・基本」定着状況調査
  - 書こうとする目的に応じて、文と文の意味のつながりを考えながら書くことに課題がある。目的に応じて記述ができない児童が53.9% (通過率44.7%)
  - 複数の資料から必要な情報を取り出し、それらを関連付けて論理的に説明することに課題がある。理由や事例を挙げた記述ができない児童が52.6% (通過率44.7%)
- 【課題2】全国学力・学習状況調査
  - 文章を読んで、表現の工夫を捉えることに課題がある。筆者が引用している言葉を書き抜くことのできない児童が87% (通過率11.6%)
  - 目的や意図に応じ、取材した内容を整理しながら記事を書くことに課題がある。インタビューの内容を条件に合わせてまとめて書くことができない児童が69.6% (通過率30.4%)

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

- 【課題1】「基礎・基本」定着状況調査
  - 日常生活に必要とされる様々な種類の文章を取り上げ、それぞれの文章の特徴を理解させる。また、他教科とも関連付けて新聞記事を書く活動に取り組み、その際には文章全体の構成を考えながら取材メモをもとに書かせたり、複数の資料から必要な情報を取り出させ、関連付けてまとめたさせたりするようにする。
- 【課題2】全国学力・学習状況調査
  - 様々な文章に触れさせ、表現の工夫に気付かせる。また、実際に文章を引用して書く学習も取り入れ、引用の書き方についても指導する。
  - 調べ学習をする際に、事実と感想、意見などと区別してそれらを整理させるとともに、字数制限などの条件に合わせて考えをまとめる活動を行う。

「基礎・基本」定着状況調査	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法		5年生 単元末テスト		5年生 学期末テスト	4年生 基礎・基本過去問	3・4年生 CRT 学力検査	3・4年生 基礎・基本過去問 学年末テスト
目標値		75.0%		75.0%	70.0%	68.0%	78.0%
実施後数値							

全国学力・学習状況調査	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法			5年生 単元末テスト		5年生 全国学力過去問	5年生 全国学力過去問	
目標値			75.0%		70.0%	75.0%	
実施後数値							

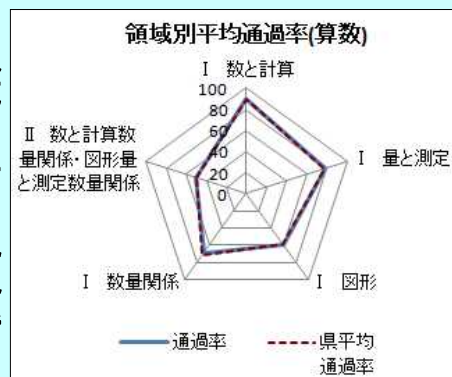
「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 72.1%, 県71.6%)

対県比 101%

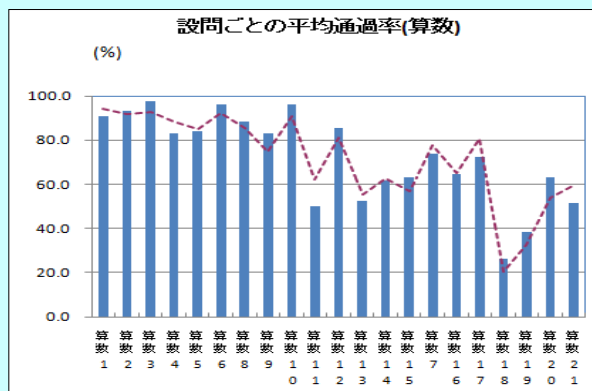
全国学力・学習状況調査 本年度正答率

本年度の結果について

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



A問題

本校 79.3 %  
全国 75.2 %  
県 77.7 %

B問題

本校 45.5 %  
全国 45.0 %  
県 46.7 %

算数科の結果において、本校の通過率は72.1%で、県の通過率を上回った。タイプIは78.9%、タイプIIは、50.3%でいずれも県の通過率を上回っている。基礎的・基本的な内容について定着が図られていると考える。

昨年度の取組の結果、課題であった「量と測定」の正答率は以前正答率が低い結果であった。また、タイプIIの正答率も低い結果となった。

来年度(全国学力学習状況調査)の目標値

対全国比

105 %

重点課題

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

【課題1】「基礎・基本」定着状況調査

- タイプI、「量と測定」における複合図形において面積を求める問題に課題がある。面積を求めるためにどこかの長さが分かればよいが長さを求める説明が不十分である (通過率50.0%)。
- タイプII「数と計算」「数量関係」折れ線グラフと棒グラフから特徴や傾向を読み取ることに課題がある。身長のはび変化をグラフから読み取ることができない (通過率26.3%)。

【課題2】全国学力・学習状況

- OB問題「数量関係」において、示された情報を整理し、比較量と割合から基準量を求めることに課題がある (通過率7.2%)。また、無回答率も2.9%であった。
- OB問題「数と計算」において、概数を用いた見積りの結果とそれに基づく判断を理解し、個数を求める理由の記述に課題がある (通過率18.8%)。また、無回答率も10.1%であった。

【課題1】「基礎・基本」定着状況調査

- 求めたい図形の面積を求めるために必要な値がいくつ必要かを考えさせる。次に、その値を発見するためには、示された値から必要な値を見いだす場面を全員で話し合う場面を設ける。その後、適用問題を用意し、多様な場面において、自力解決させるようにする。
- 社会や、理科など、グラフの読み取りが日常的にできるように他教科との関連も意識していく。また、グラフの見えない部分を予測させるなど、読解力を培う場面を設定し、児童に説明させる機会を重視する。

【課題2】全国学力・学習状況調査

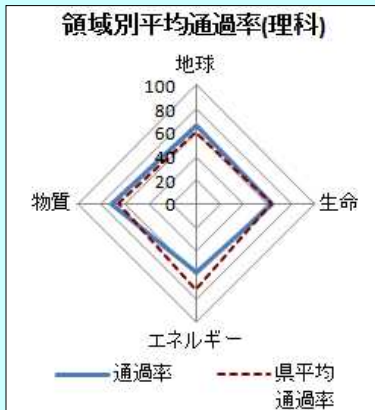
- 割合や比較量、比較量と基準量の求め方の定着を図り、自分の考えを説明し、記述する機会を設定する。
- 概数を求めることの利便性を実感させることで、概数の理解を図る。また、関連した問題を繰り返し、行う中で、定着を図る。

「基礎・基本」定着状況調査	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法		5年生 単元末テスト		5年生 学期末テスト		3・4年生 CRT 学力検査	3・4年生 基礎・基本過去問 学年末テスト
目標値		75.0%		78.0%		70.0%	75.0%
実施後数値							
全国学力・学習状況調査	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法			5年生 学期末テスト		5年生 全国学力過去問	5年生 全国学力過去問	
目標値			75.0%		70.0%	75.0%	
実施後数値							

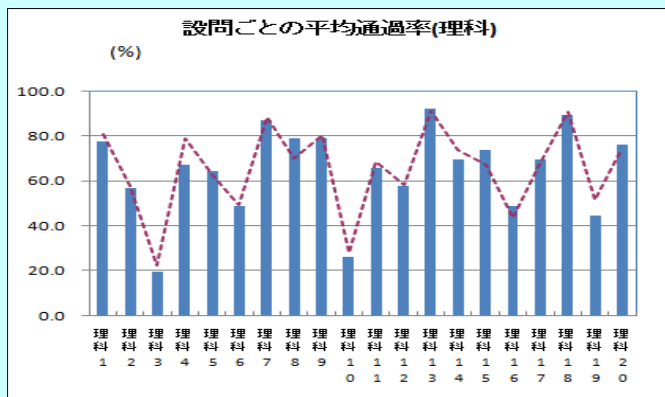
「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 64.7%, 県 65.3%)

対県比 98.1%

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



全国学力・学習状況調査 本年度正答率

知識

本校 60.9%  
全国 61.3%  
県 63.6%

活用

本校 62.6%  
全国 60.5%  
県 62.9%

本年度の結果について

「基礎・基本」定着状況調査は、タイプⅠは 68.9% (県比%)、タイプⅡは 54.8%の通過率となっている。全国学力学習状況調査は、主として知識に関する問題は、この結果から、基礎的・基本的な内容については幾分定着が図られてきているが、知識・技能を活用する力が弱いと考えられる。

重点課題

【課題1】「基礎・基本」定着状況調査

○水の温度と体積の関係 (県比: -4.2ポイント)、直列つなぎ等の回路に関する問題 (県比: -11.9ポイント) など、タイプⅠに関する問題、水の自然蒸発に関する内容 (県比: -6.8ポイント) などタイプⅡに関する問題において通過率が低い。

【課題2】全国学力・学習状況調査

○金属の熱膨張 (県比: -7ポイント)、生物の成長に必要な養分の取り方 (県比: -7.4ポイント)、砂糖の析出する量 (県比: -10ポイント) などグラフを基に考察し、分析した結果を記述する問題において通過率が低い。  
○星座の動きを捉えるための適切な記録方法 (県比: -11.4ポイント)、メスシリンダーで一定量を測り取る方法 (県比: -5.8ポイント) など、観察・実験に関する技能面の通過率が低い。

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

【課題1】「基礎・基本」定着状況調査

○理科の授業において、「観察・実験」を重視すること、「観察・実験」から得られた結果をもとに考察する機会を重視することが、必要である。そのため、問題解決的な学習過程を定着させるとともに、考察の際の教師の指導の在り方、ノート指導等、理科導入期における理科指導の在り方について、校内で研修を行う必要がある。具体的には、単元の最初に、既習事項を確認する機会を設けること、パフォーマンス課題等を与え、学習に意欲と見通しを持たせた単元構成を図ることを重視する。その中で、児童自らが仮説を立て、獲得した結果をもとに説明するなどの言語活動を充実させる。

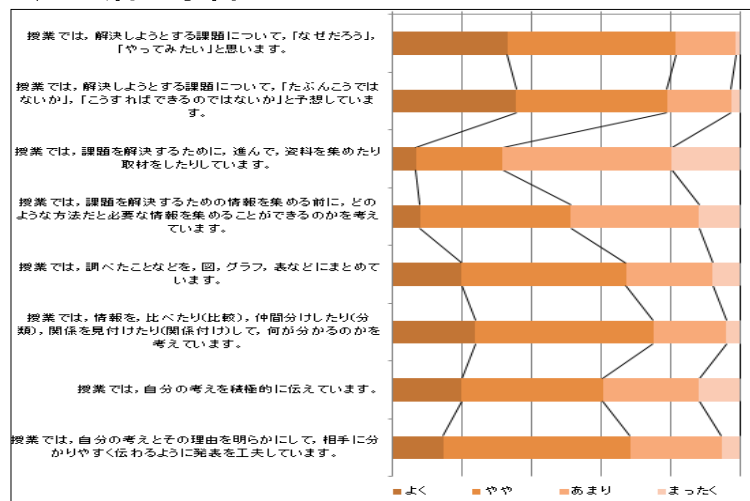
【課題2】全国学力・学習状況調査

○観察・実験の機会を十分に確保するとともに、適切な器具等の扱い方について、丁寧な指導を行う。また、技能の獲得状況を把握するために、パフォーマンス評価も適宜取り入れる。  
○実験結果をグラフや表に表し、結論を導く過程を重視するために、モデルとなるノートを示すなど、考察場面を重視した、理科指導を行うよう、校内研修を設ける。

「基礎・基本」定着状況調査	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法		5年生 単元末テスト		5年生 学期末テスト		3・4年生 CRT 学力検査	3・4年生 基礎・基本過去問 学年末テスト
目標値		75.0%		78.0%		70.0%	75.0%
実施後数値							
全国学力・学習状況調査	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法			5年生 学期末テスト		5年生 全国学力過去問	5年生 全国学力過去問	
目標値			75.0%		70.0%	75.0%	
実施後数値							

質問紙調査（「基礎・基本」定着状況調査：児童質問紙調査）

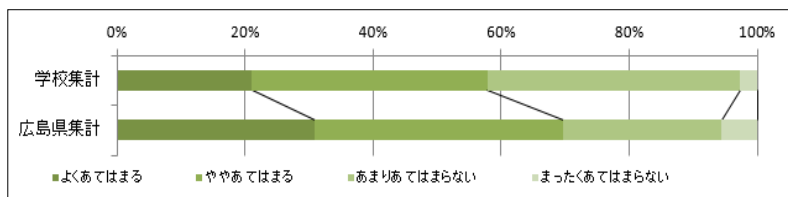
(1) 生活・学習



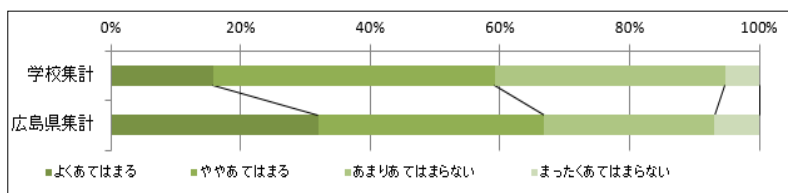
児童の回答についての課題 (現状値)	今後の具体的な取組の内容	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
授業では課題を解決するために、進んで、資料を集めたり取材をしたりしています。(あてはまる 31.6%)	県が推進する「課題発見解決授業」の学習過程で展開できる授業を総合的な学習の時間、各教科で創造する。その際、自ら設定した課題を解決するために図書やインターネット等で調べる活動を仕組む。学習の見通しを持たせることにより、進んで学ぼうとする態度をはぐくむ。	5	50%	児童質問紙の調査結果	1月末		

(2) 教科

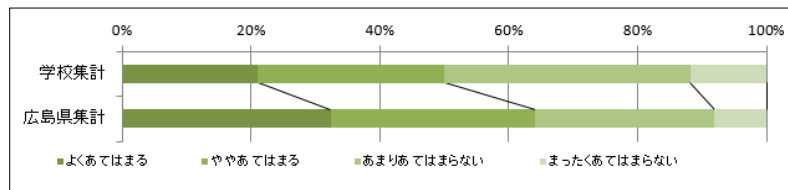
国語では目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり書いたりしています。



算数の授業では、解き方や考え方を話し合う時に、理由をあげて説明しています。



理科の授業では、自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりしています。



	児童の回答についての課題 (現状値)	授業改善の方向性や具体的な取組	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
国語	国語では目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり書いたりしています。(あてはまる : 57.9%)	新聞・図書資料などを読み、自分の考えを書く時間を確保する。また、ペア学習やグループ活動など自分の考えを話す場を設定する。	5	70%	児童質問紙の調査結果	1月末		
算数	算数の授業では、解き方や考え方を話し合う時に、理由をあげて説明しています。(あてはまる : 59.2%)	論理的な説明になるように、算数ノートに説明文を書くこと、また、結論先行型の話形を示し、説明させるようにする。 また、他者説明を取り入れ、他者がどのように考えているかを代理で説明するなど、論理を読み解く機会を設定する。	5	65%	児童質問紙の調査結果	1月末		
理科	理科の授業では、自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりしています。(あてはまる : 50%)	予想の場面、考察の場面を中心に言語活動を設定し、自らの考えをグループ、全体に伝え、意見を交流させる時間を設定する。	5	60%	児童質問紙の調査結果	1月末		